

IFIP—情報処理国際連合— 近況報告



相田 仁 | IFIP 日本代表 / 東京大学

IFIP の総会 (GA : General Assembly) は、毎年 1 回開催され、IT 領域全体にかかわる多くの問題について議論が行われる。新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催が続いていたが、2022 年は 3 年ぶりの対面開催となったものの、日本代表である筆者は前後の予定の関係で、1 日目午後と 2 日目のみオンラインで参加した。

長らく General Secretary を務めた Eduard Dundler が 7 月 1 日に引退し、後任は Anatolii Marushchak である。従来は GA の議事録のドラフト版を Eduard に送付してもらって本報告の参考にしていたが、今回はそれができず、また、Web 上の会議資料にもアクセスできない状態が続いているため (技術的理由とのこと)、個人的なメモのみに基づいて報告するので、従来に比べて詳細さおよび正確さにおいて劣る点をご容赦いただきたい。

Marketing Taskforce からの報告

今年の GA で最も話題となったのが「IFIP の魅力をいかにして高めるか」であった。別途 Treasurer からの報告にあったように、IFIP の収支は新型コロナウイルスの影響により悪化しており、2021 年度の赤字は基金を 50 年で食い潰すレベルであったのが 2022 年度は 17 年で食い潰すレベルになり、2023 年度には 8 年で食い潰すレベルになりそうな見込みである。もちろんこれは新型コロナウイルスによる一時的な部分が大きく、新型コロナウイルス収束に伴いある程度改善すると思われるが、いろい

ろな聴衆に向けたコミュニケーションの重要性が指摘された。具体的方策として、Web サイトの改善、2 カ月に 1 度程度のニュースレターの発行、報告の形式がバラバラなので統一するためのテンプレートの作成などが挙げられた。これに対して IFIP グッズの販売やスポンサをとってはどうかといった意見が出された。

各種委員会等報告

技術委員会 (Technical Committee : TC) および Specialist Group の議長の集まりである Technical Assembly からの報告では、WG 1.11 と 2.17 合同で Foundation of Quantum Computing という WG が設立された旨紹介があった。Domain Committee on Quantum Computing との関係について質問がなされ、WG の方は技術 / 数学 / プログラミング的観点を扱うのに対して DC の方は社会に与える影響にも触れるとの説明があった。

表彰関係

David O'Leary Award, Service Award, IFIP Fellowship の投票が行われ、いずれも原案のとおり決定された。今年度 IFIP Fellowship への推薦が少なかったことに関連して、技術委員会やメンバ国があまり活発でないことや、Fellow の実績として女性比率が少ないことや特定の国に偏っていることなどが指摘され、意見交換がなされた。

Member Societies Assembly (MSA) 選出

日本を含めた4カ国のMSAの構成員の任期が2020年度で切れたままになっており、2021年度で任期が切れる分と合わせて定員11名中8名の構成員の選出が行われた。2020年度で任期の切れたメンバは1年空いたので今回再度立候補することができ、1回目の投票でACM、オーストラリア、ブラジル、日本、ノルウェー、南アメリカの6カ国が選ばれ7位に3カ国が同数で並んだため決選投票が行われ、オーストリアと英国が選出された。

規約改定

Domain Committeeは従来独自のイベントを企画することは想定されておらず、したがって技術委員会のようなFundも持っていなかったが、DC on IoTの経験からこれらを認める規約改定が提案され、投票の結果承認された。

改定後の規約類はIFIPWebページのRules & Formsから参照できる。

会議開催予定

次回総会は2023年9月18日～20日にウィーンで開催する予定。また、次回の役員会は、2023年3月に新会長の出身母体であるACSがホストして行われる予定。

TC 1 (Foundations of Computer Science)

代表：廣川 直(北陸先端科学技術大学院大学)

TC 1は計算機科学の基礎に関する専門委員会である。8つのWGから構成されており、2021年10月から2022年10月までの期間において11の国際学会の開催に寄与した。また量子計算が新たな計算パラダイムとして学術的・社会的に注目されていることを受け、TC 1はTC 2と共同でWG

1.11/2.17 (Foundations of Quantum Computation)を発足した。その理論・応用研究の促進を目的としている。

2021年11月と2022年2月にTC 1会合が開かれ、発展途上国の若手研究者を対象とするTC 1サマースクールの開催について協議した。ベトナムでの実施が第一候補に挙がっている。またアウトリーチ活動の必要性が議論され、理論研究と応用の関係を紹介するサーベイ論文を共同執筆することが決まった。加えて基礎研究の応用事例を集積・紹介する枠組みの検討を進めている。

最後に人事について。2021年10月にTC 1 chairの改選があり、Luis S. Barbosa氏(フランス)の続投が決まった。またWG 1.6 (Rewriting)に西田直樹氏(名古屋大学)が加わった。

TC 2 (Software : Theory and Practice)

代表：五十嵐淳(京都大学)

今年度のTC 2会議は2022年7月7日にオンライン開催された。TC 2 chairはドイツTU BraunschweigのIna Schaefer、vice-chairはドイツUniv. Duisburg-EssenのMichael GoedickeとオーストリアTU WienのStefan Biffl、secretaryはフランスInria/Sorbonne Univ.のJulia Lawallとなっている。会議の主な内容は次の通りである。(1)各WGのメンバに関して議論した。WGチェアには変更がなく16名の新しいWGメンバと3名の名誉メンバが承認され、3名が除名された。(2)新しいWGとしてWG 1.11/2.17 Foundations of Quantum computingが設置された。TC 2のWebページ <https://ifip-tc2.paluno.uni-due.de/>

TC 3 (Education)

代表：斎藤俊則(星槎大学)

2022年度のTC 3の主な活動はWorld Conference on Computers in Education 2022 (WCCE 2022)の日本(広島市)における開催であった。

WCCE 2022 は 'Towards a collaborative society through creative learning' をテーマに、本会のコンピュータと教育 (CE) 研究会, 教育学習支援情報システム (CLE) 研究会, および日本学術会議による共催のもと, 2022 年 8 月 21 日~24 日にかけて広島国際会議場で開催された。

WCCE は IFIP TC 3 のフラグシップカンファレンスであり, 2022 年大会は, 1970 年の第 1 回阿姆斯特ダム大会から数えて第 12 回目の開催であった。会期中には 36 カ国より合計 370 名の学術参加者 (学術発表を目的とする参加者, 370 名のうちオンライン参加 160 名, 現地参加 210 名) を集めた。また, 併催イベント (オードリー・タン (Audrey Tang) 氏基調講演パブリックビューイング, 市民公開講座など) 出席者を含めた参加者総数は 526 名であった。コロナ禍によるさまざまな制約の中, 無事に盛会のもとで会期を終えた。

TC 5 (Information Technology Applications)

代表: 村山優子 (津田塾大学)

TC 5 は, 情報技術のアプリケーションを支えるための基本概念, モデル, 理論のほか, 多様なアプリケーション等学際的な研究開発にかかわる。Tadeusz Czachorski 教授 (ポーランド科学アカデミー Institute of Theoretical and Applied Informatics) が 2 期目の Chair を務める。

現在, 11 の WG が多様な課題に取り組む。

生産システムや生産管理システムにかかわる WG 5.7 (Advances in Production Management Systems) には, 日本人メンバが 9 名 (名誉会員 2 名含) 登録されている。当該 WG の国際会議 APMS (Advanced Production Management System) 2022 は, 2022 年 9 月 25 日~29 日に, 韓国の慶州にてハイブリッドで開催された。

2020 年 6 月に筆者等が設立した災害情報処理の WG 5.15 は, 年次国際会議 ITDRR (IT in Disaster Risk Reduction) 2022 を, 2022 年 10 月 12 日~14 日に, ノルウェー南部の Kristiansand 市内 Uni-

versity of Agder にてハイブリッドで開催した。領域委員会時代から数えて第 7 回目の開催となった。第 5 回までは 2019 年のウクライナを含め主に東欧州での開催が続いたが, 昨年の日本に続き, 他地域での開催となった。

TC 6 (Communication Systems)

代表: 相田 仁 (東京大学)

2022 年も新型コロナウイルスを考慮して, TC 6 の会合は 2021 年 7 月 21 日の第 1 回会合, 2021 年 11 月 15 日の第 2 回会合のいずれもオンラインで開催された。議題は各 WG の活動報告やそれに伴う予算など, 例年と同様のものが多く, 特に IFIP TC 6 Open Access Digital Library (以下 TC6 DL) と IFIP INRIA HAL Digital Library (以下 IFIP INRIA HAL DL) の違いについて丁寧な説明がなされた。TC 6 DL はリクエストすることにより会合が開催される前にプロシーディングスを作成することが可能であり, 掲載費用もかからない。TC 6 DL は 2021 年にチューリッヒ大学に移管された。IFIP INRIA HAL DL は掲載料が 10 ユーロかかり, また LNCS に出版されたものの場合, 最初の 3 年間は Springer のデジタルライブラリである SpringerLink 経由でしかアクセスできない。

今年は TC 6 の 50 周年にあたるためどのようなイベントを行うか議論された。第 1 回会合では, 議長の Burkhard Stiller が 2023 年の 1 月~2 月にチューリッヒで半日程度のイベントを開催すべく会場を探すことになったが, 第 2 回会合では 2023 年 6 月 12 日~15 日にスペインのバルセロナで開催される IFIP Networking の前後あるいは期間中に半日程度のイベントを開催する方向に方針変更され, 内容を検討するグループが作られた。

IFIP Networking 2022 は 2022 年 6 月 13 日~16 日にイタリアの Catania で現地開催された。IFIP Networking 2023 も現地開催の予定である。

TC 7 (System Modelling and Optimization)

代表：張 勇兵(筑波大学)

TC 7 Conference および TC 7 meeting は隔年に開催され、2022 年が第 30 回目の定例開催年であり、TC 7 Chair Dr. Lukasz Stettner などの主催者の強い要望により、2022 年 7 月 4 日～8 日にポーランドワルシャワでオンサイトのみで開催された。今回の大会は、航空宇宙や生体臨床医学、経済、気象学、公共サービスなど分野における社会問題を解決するため最適化手法の応用を中心としていた。具体的なテーマは、ダイナミックシステムのモデル化および制御技術や軌道計算分析、マクロ経済システムの最適化、非確実性システムの最適化と制御などがあった。

TC 7 参加の各 WG はほぼ独立に各々の活動を行っており、2022 年度に WG 7.5 は京都大学で構造システムにおける信頼性と最適化に関する会議を開催した。この会議は、構造システムの信頼性分析・最適化、損傷累積モデル化、構造健全モニタリング、構造リスク管理などのテーマを中心とした。

TC 8 (Information Systems)

代表：内木哲也(埼玉大学)

TC 8 は組織や社会の活動基盤である情報システム (Information Systems) の計画立案から、分析設計、開発、運用管理、利用評価、さらには組織設計や運営、社会的評価までも含む、Socio-Technical System のマネジメント全般を対象としている。2022 年の第 53 回 TC 8 年次総会は IFIP-GA の会期に合わせて 9 月 22 日にフランス Lille 大学にて 3 年ぶりに遠隔を交えた対面で、9 カ国の代表委員と 7WG 代表委員の 16 名により開催された。今回も、遠隔で短時間の審議を余儀なくされたため、各 WG の活動状況についての審議が中心で、次年度の活動計画が了承された。TC 8 の主活動となっている社会貢献事業については、既存の活動の継続以外は、今回は提案のとり

まとめまでで具体的実施方策等をメール等で継続審議することで了承された。2023 年は 4～9 月に遠隔で短時間の会合を 2 回開催し、対面の会合は 2024 年欧州情報システム国際会議 ECIS の会期に合わせてキプロス共和国にて開催の予定。

TC 9 (ICT and Society)

代表：小向太郎(中央大学)

TC 9 は、隔年でシンポジウム HCC (Human Choice and Computers) を開催しているほかに、9 つの WG を設置して活動を行っている。TC 9 の 2022 年度の年次会合は、9 月 7 日にオンラインで行われ、HCC や WG の活動について、実施状況や今後の計画、新型コロナウイルスの影響下で効果的な活動を維持していくためのオンライン活用などについて議論した。

2022 年 9 月 8 日～9 日には、日本代表が総合議長を務め、第 15 回 HCC を、東京の中央大学市谷田町キャンパス (中央大学 iTL) で開催した。「人類の選択とデジタル・バイ・デフォルト：自律とデジタル決定の相克」をテーマに、新型コロナウイルス感染拡大のための入国制限に不安が残る中で、プロシーディングへの投稿は例年と比べると少なく、海外からは主としてオンラインの参加となった。基調講演 2 件、個別報告 16 件、パネルディスカッション 2 回を実施し、2 日間にわたって活発な議論が行われた。

TC 10 (Computer Systems Technology)

代表：金川信康(日立製作所)

TC 10 はコンピュータシステムの技術、すなわち各階層における設計・評価技術とその概念、方法論、ツールに関する情報交換と協調促進を目的としている。執行部は 2021 年より Chair : Achim Rettberg (ドイツ代表) 以下 21 名のメンバから構成されている。2022 年度は全体会議は 11 月～12 月に開催予定である。2020 年 6 月にオンラインで開催された全体会議では、近年低迷気味である TC 活動を活性化

(revitalizing) させる方法 (アクティブなメンバ名簿の再確認, 会議開催回数増等) について話し合われた. これを受けて各 WG とともに新たにプロジェクトを起こそうと努力しているが, COVID-19 の影響で会議を開催するのに苦労している中, 徐々にハイブリッド開催から現地開催が増えてきている.

TC 10 は 10.2 - Embedded Systems, 10.3 - Concurrent Systems, 10.4 - Dependable Computing and Fault Tolerance, 10.5 - Design and Engineering of Electronic Systems の 4 つの WG より構成されている.

TC 11 (Security and Privacy Protection in Information Processing Systems)

代表: 越前 功 (国立情報学研究所)

TC 11 は情報セキュリティに関連する分野を取り扱う TC である. TC 11 の活動は全体活動と WG 活動に分かれており, 全体活動では TC 11 の運営を決める年次ミーティングと国際会議 SEC (International Information Security Conference) を開催している. WG 活動では各 WG が国際会議やワークショップ等を開いている.

今回の SEC 2022 は, 37 回目となり, ハイブリッド形式で 2022 年 6 月 13 日 ~ 15 日の 3 日間開催された. 今回は, WG 11.11 主査の Cristian Jensen 教授 (デンマーク工科大学) と TC 11 副議長・スウェーデン代表の Simone Fischer-Hübner 教授 (カールスタッド大学) が組織委員長を務めた.

例年通り, SEC 2022 に先立ち, 6 月 12 日に TC 11 の年次委員会がオンラインで開催された. 例年は終日行われるが, 昨年と同様に今回は時差のある中でのオンライン開催のため, 数時間の会議となった. 次回の国際会議 SEC 2023 は, ポーランドのポズナンで 2023 年 6 月 14 日 ~ 16 日に開催予定である.

TC 11 では, 現在 14 の WG が活動している.

TC 11 議長 Steven Furnell (ノッティンガム大学, イギリス) が退任. 新議長として Paul Haskell-Doland 教授 (エディス・コーワン大学, オーストラリア) が選出された.

TC 12 (Artificial Intelligence)

代表: 栗原 聡 (慶應義塾大学)

TC 12 は 1989 年に設立され, 現在, Eunika Mercier-Laurent 教授 (ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学, フランス) が議長を務めている. AI (人工知能) 全般をカバーしており, 現在 33 カ国が参加し, Knowledge Representation and Reasoning, Machine Learning and Data Mining, Intelligent Agents, Artificial Intelligence Applications, Knowledge Management, Social Networking Semantics and Collective Intelligence, Computational Intelligence, Artificial Intelligence & Cognitive Science, AI for Energy & Sustainability (AIES), AI Governance (AIGOV), AI for Global Security の 11 の WG が運営されている. 従来は 9 個であったが, ガバナンスなど ELSI に関する WG が追加されている.

TC 13 (Human-Computer Interaction)

代表: 北村喜文 (東北大学)

Human-Computer Interaction の分野を担当する TC 13 が主催する国際会議 INTERACT (International Conference on Human-Computer Interaction) は隔年開催で西暦の奇数年に開催されている. 19 回目の INTERACT 2023 は, 2023 年 8 月 28 日 ~ 9 月 1 日に英国 York で現地とオンラインのハイブリッド形式で開催予定である (<https://interact2023.org/>).

TC 13 の各国代表が集まる全体会議は, 2022 年 3 月 18 日に英国 York とオンラインのハイブリッド形式で, また 10 月 21 日にオンラインで開催された. TC 13 の Chair は, これまで Université Toulouse 3 (フランス) の Philippe Palanque であったが, 2022 年 10 月から University of Pretoria (南アフリカ) の Paula Kotze が務めることになった. 彼女はこれまで TC13 で Vice-Chair for Awards を務めていた (2014 ~ 2022).

IFIP TC 13 の詳細は, Web ページ <http://ifip-tc13.org/> 参照のこと.

TC 14 (Entertainment Computing)

代表：星野准一(筑波大学)

TC 14 は、2002 年 SG 16 (Specialist Group on Entertainment Computing, 議長：中津良平氏) として出発し、設立以来 5 年が経過した 2006 年 8 月にチリ、サンチャゴで行われた IFIP 総会において、TC への昇格が認められ、TC 14 として活動を開始することとなった。中津氏の議長の任期が終了したので、2012 年度に 2002 年より副議長を務めていた Matthias Rauberberg 氏 (オランダ) が議長に選出された。

2018 年から Rainer Malaka 氏 (ドイツ) が議長を担当しており、副議長は Letizia Jaccheri 氏 (ノルウェー)、Esteban Clua 氏 (ブラジル)、星野准一 (日本) である。中津良平氏は WG 14.3 の議長を担当している。また星野は WG 14.4 Entertainment Games の議長を兼任している。

Entertainment Computing ジャーナル (ELSEVIER) の運営に力を入れており、論文のダウンロード販売などの経営面でも好調である。

昨年 1 年間の TC 14 の構成員の変更・主たる活動は以下の通りである。

- (1) TC 14 の主催する国際会議 International Conference on Entertainment Computing (ICEC2022) の開催を行った。
- (2) 2022 年 9 月時点で TC 14 の国際委員の数は 26 名、WG の数は 10 である。
- (3) WG 14.6 Extended Reality for Digital Entertainment が新たに設立された。

IP 3 (International Professional Practice Partnership)

代表：掛下哲郎(佐賀大学)

IP 3 は、各国の高度 IT 人材資格制度を認定することにより、世界の IT 専門家の強化に資することを目的としている。本会は、IP 3 の活動が認定情報技術者 (CITP) 制度の確立に有意義と考え、2009 年 6 月より参加し、ボード・メンバを務めている。参

加団体は、オーストラリア ACS, 南アフリカ共和国 IITPSA, カナダ CIPS, 日本 IPSJ, ニュージーランド IITPNZ, ジンバブエ CSZ, 韓国 KIISE, エジプト ITI, スリランカ CSSL, オランダ NGI/VRI, スイス SI の 11 学会と、IIBA, ISACA の 2 協会である。

IP 3 は (1) サイバーセキュリティ資格の認定, (2) データサイエンティスト資格を対象とした認定制度の検討, および (3) ISO/IEC 24773 に準拠した認定制度の創設についての検討を始めることになった。IP 3 関係者では Anthony Wong が IFIP 会長, Moira de Roche が IFIP 副会長であることから、IFIP 首脳陣の協力も得つつ取り組みを進めている。

本会は、おおむね 2 カ月ごとに開催されるオンライン会議による理事会への出席に加え、ML を活用して各種の活動を行った。2022 年度には IP 3 による認定継続審査を受審し、これらの成果に対する評価も受けている。また、ISO/IEC JTC 1/SC 7/WG 20 にて ISO/IEC 24773 の改訂作業が進行しており、これに準拠した認定制度の創設についての提案も行っている。

TC 1 : Foundations of Computer Science

- WG 1.2 Descriptive Complexity
- WG 1.3 Foundations of System Specification
- WG 1.5 Cellular Automata and Discrete Complex Systems
- WG 1.6 Rewriting
- WG 1.7 Theoretical Foundations of Security Analysis and Design
- WG 1.8 Concurrency Theory
- WG 1.9 Verified Software (joint with WG 2.15)
- WG 1.10 String Algorithmics & Applications
- WG 1.11 Foundations of Quantum computing (joint with WG 2.17)

TC 2 : Software : Theory and Practice

- WG 2.1 Algorithmic Languages and Calculi
- WG 2.2 Formal Description of Programming Concepts
- WG 2.3 Programming Methodology
- WG 2.4 Software Implementation Technology
- WG 2.5 Numerical Software
- WG 2.6 Database
- WG 2.7 User Interface Engineering (joint with WG 13.4)
- WG 2.8 Functional Programming
- WG 2.9 Software Requirements Engineering
- WG 2.10 Software Architecture
- WG 2.11 Program Generation
- WG 2.13 Open Source Software
- WG 2.14 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/8.10)
- WG 2.15 Verified Software (joint with WG 1.9)
- WG 2.16 Programming Language Design
- WG 2.17 Foundations of Quantum computing (joint with WG 1.11)

TC 3 : Education

- WG 3.1 Informatics and digital technologies in School Education
- WG 3.3 Research into Educational Applications of Information Technologies
- WG 3.4 Professional and Vocational Education in ICT
- WG 3.7 Information Technology in Educational Management

TC 5 : Information Technology Applications

- WG 5.1 Global product development for the whole life-cycle
- WG 5.4 Computer Aided Innovation
- WG 5.5 Cooperation infrastructure for Virtual Enterprises and electronic business (COVE)
- WG 5.7 Advances in Production Management Systems
- WG 5.8 Enterprise Interoperability
- WG 5.10 Computer Graphics and Virtual Worlds
- WG 5.11 Computers and Environment
- WG 5.12 Architectures for Enterprise Integration
- WG 5.13 Bioinformatics and its Applications
- WG 5.14 Advanced Information Processing for Agriculture
- WG 5.15 Information Technology in Disaster Risk Reduction (ITDRR)

TC 6 : Communication Systems

- WG 6.1 Architectures and Protocols for Distributed Systems
- WG 6.2 Network and Internetwork Architectures
- WG 6.3 Performance of Communication Systems
- WG 6.6 Management of Networks and Distributed Systems
- WG 6.8 Mobile and Wireless Communications
- WG 6.9 Communication Systems in Developing Countries
- WG 6.10 Photonic Networking
- WG 6.11 Communication Aspects of the e-World
- WG 6.12 Service-Oriented Systems (joint with WG 8.10/2.14)

TC 7 : System Modelling and Optimization

- WG 7.2 Computational Techniques in Distributed Systems
- WG 7.3 Computer System Modeling
- WG 7.4 Inverse Problems and Imaging
- WG 7.5 Reliability and Optimization of Structural Systems
- WG 7.6 Optimization - Based Computer Aided Modeling and Design
- WG 7.7 Stochastic Control and Optimization
- WG 7.8 Nonlinear Optimization

TC 8 : Information Systems

- WG 8.1 Design and Evaluation of Information Systems
- WG 8.2 The Interaction of Information Systems and the Organization
- WG 8.3 Decision Support
- WG 8.4 E-Business Information Systems: Multi-disciplinary research and practice
- WG 8.5 Information Systems in Public Administration
- WG 8.6 Transfer and Diffusion of Information Technology
- WG 8.9 Enterprise Information Systems

- WG 8.10 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/2.14)
- WG 8.11 Information Systems Security Research (joint with WG 11.13)
- WG 8.12 Industrial Information Integration

TC 9 : ICT and Society

- WG 9.1 Computers and Work
- WG 9.2 Social Accountability and Computing
- SIG 9.2.2 Special Interest Group on Framework on Ethics of Computing
- WG 9.3 Intelligent Communities
- WG 9.4 The Implications of Information and Digital Technologies for Development
- WG 9.5 Our Digital Lives
- WG 9.6 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 11.7)
- WG 9.7 History of Computing
- WG 9.8 Gender, Diversity and ICT
- WG 9.9 ICT and Sustainable Development
- WG 9.10 ICT Uses in Peace and War

TC 10 : Computer Systems Technology

- WG 10.2 Embedded Systems
- WG 10.3 Concurrent Systems
- WG 10.4 Dependable Computing and Fault Tolerance
- WG 10.5 Design and Engineering of Electronic Systems

TC 11 : Security and Privacy Protection in Information Processing Systems

- WG 11.1 Information Security Management
- WG 11.2 Pervasive Systems Security
- WG 11.3 Data and Application Security and Privacy
- WG 11.4 Network & Distributed Systems Security
- WG 11.5 IT Assurance and Audit
- WG 11.6 Identity Management
- WG 11.7 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 9.6)
- WG 11.8 Information Security Education
- WG 11.9 Digital Forensics
- WG 11.10 Critical Infrastructure Protection
- WG 11.11 Trust Management
- WG 11.12 Human Aspects of Information Security and Assurance
- WG 11.13 Information Systems Security Research (joint with WG 8.11)
- WG 11.14 Secure Engineering

TC 12 : Artificial Intelligence

- WG 12.1 Knowledge Representation and Reasoning
- WG 12.2 Machine Learning and Data Mining
- WG 12.3 Intelligent Agents
- WG 12.5 Artificial Intelligence Applications
- WG 12.6 Knowledge Management
- WG 12.7 Social Networking Semantics and Collective Intelligence
- WG 12.9 Computational Intelligence
- WG 12.10 Artificial Intelligence & Cognitive Science
- WG 12.11 AI for Energy & Sustainability (AIES)
- WG 12.12 AI Governance (AIGOV)
- WG 12.13 AI for Global Security

TC 13 : Human-Computer Interaction

- WG 13.1 Education in HCI and HCI Curricula
- WG 13.2 Methodologies for User-Centered Systems Design
- WG 13.3 Human Computer Interaction, Disability and Aging
- WG 13.4 User Interface Engineering (joint with WG 2.7)
- WG 13.5 Human Error, Resilience, Reliability, Safety and System Development
- WG 13.6 Human-Work Interaction Design
- WG 13.7 Human - Computer Interaction & Visualization (HCIV)
- WG 13.8 Interaction Design and International Development
- WG 13.9 Interaction Design and Children
- WG 13.10 Human-Centered Technology for Sustainability

TC 14 : Entertainment Computing

- WG 14.1 Digital Storytelling
- WG 14.2 Entertainment Robot
- WG 14.3 Theoretical Foundation of Entertainment Computing
- WG 14.4 Entertainment Games
- WG 14.5 Social and Ethical Issues in Entertainment Computing
- WG 14.6 Extended Reality for Digital Entertainment
- WG 14.7 Art and Entertainment
- WG 14.8 Serious Games
- WG 14.9 Game Accessibility
- WG 14.10 Sound and Music Computing